

～道の駅を核としたまちづくり～

令和2年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名： 道の駅「青の国ふだい」の強み・ポテンシャル分析

研究代表者：総合政策学部 准教授 新田義修

課題提案者：普代村 特命課長 土澤智

研究メンバー：山本健（総合政策学部）

技術キーワード：道の駅、三陸沿岸道路、観光、交流、産業経済

▼研究の概要（背景・目標）

普代村では、三陸沿岸道路の整備により主要都市との交流拡大、物流の加速や市場の拡大が期待される一方、ストロー現象に伴う商店街の衰退が懸念されている。そこで村の観光交流拠点である三陸鉄道「普代駅」を道の駅として「交流」「産業振興」「情報交流」の拠点として再整備するにあたり、村民の購買行動や売上規模の想定に必要な情報収集が求められていた。

▼研究の内容（方法・経過）

村民アンケート調査

1. 調査対象 村民1000人
2. 調査内容 購買決定要因
3. 調査期間 2020年12月

事例調査

1. 県内外の道の駅への実地調査
2. 普代村におけるフィールドワーク

▼研究の成果（結論・考察）

道の駅がもたらす効果(アンケート結果より)

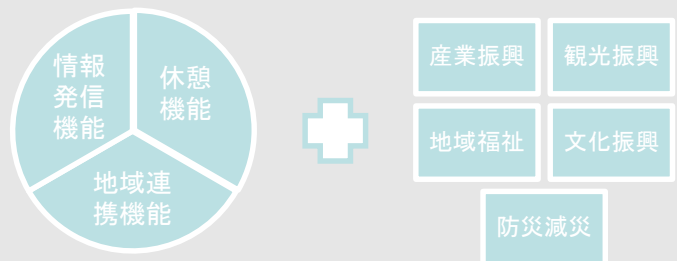
1. 来訪者増加による村の活性化
2. 観光振興に役立つ
3. 村の特産品が売れる
4. 知名度やイメージが向上する
5. 村の農林水産業が活性化する

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

道の駅「青の国ふだい」の駐車区画は普通車が25台で、県内34か所の道の駅でこれよりも少ないのは「みやもり」と「むろね」の2か所である。これに対して大型車は18台で「高田松原」「平泉」「みやこ」に次ぐ規模である。近接する「のだ」「たのはた」のいずれもが行楽客をターゲットにしているのに対して、ICからの動線でも優位に立つため、全線開通の折に八戸道から東北道から三陸道にシフトした大型トラックの立ち寄りが期待される。競合する道の駅との差別化を図る上で、例えばコインシャワーや朝食の提供などが有効と思われる。一方、アンケート調査の結果、道の駅の販売部門に移行するアンテナショップはあまり利用されていないことが明らかとなった。要望の多かった軽食の提供、特産品の販売、産直、あるいは日用品の販売といった点で充実を図れば新たな需要を創出できる可能性が高い。普代村が誇る地域資源である海や山などの豊かな自然へのゲートウェイ機能、水産加工品の品揃えの充実、鵜鳥神楽に代表される伝統芸能を発表する機会の提供などが特に望まれていることが、アンケートの自由回答から確認できた。今後は本研究から得られた示唆を商品戦略に落とし込むと同時に、道の駅によって実現される諸機能の効果の測定と検証が求められる。



新しい道の駅に期待される機能



道の駅の機能	取組内容
産業振興	特産品の販売、商店街への誘導
観光振興	三陸ジオパークエリア、黒崎地区との交流拠点
情報発信	観光拠点、イベント情報のPR
文化振興	鵜鳥神楽はじめ郷土芸能、地域文化
防災減災	災害情報の発信、避難所としての利用
地域福祉	村内各拠点への送迎拠点、介護予防教室、健康教室